

モデル河川づくり（理想とする川づくり）

豊穰の郷赤野井湾流域協議会

代表 寺田 順一郎

滋賀県

・目的

私達は第9回世界湖沼会議守山セッションの成功を機会に、更に活動を発展させるため、地域住民・学校・企業とともに「ホタルと魚が住めるモデル河川づくり」を行い、会員が汗を流せる場づくりと地域の見本なる川づくりを目指したいと思っています。

守山の自治会や学校では、私達協議会の指導のもとで、様々な取り組みを行ってきました。この取り組みをローカル水ビジョンと名付け、「ホタルと魚が住めるモデル河川づくり」をつなげた「地域水環境ビジョン守山」を作っていきたいと思えます。

この「地域水環境ビジョン守山」が赤野井湾流域での「ゲンジボタルの乱舞する故郷」の再現や琵琶湖の水質改善による「シジミに親しむ湖辺の再現」につながると思えます。

自然工法で作られた目田川の河川も、人が寄らず、管理もせずのままに放置しているため荒廃して、ゴミ捨て場となってしまっています。この河川をもう一度豊かな河川にしてホタルや小魚が生息する自然豊かな河川にしたいと会員、市民が「モデル河川」となるように取り組みを始めました。又、会員は7年間100地点の河川調査をしています。会員の中から、調査と実践を結び付けたいという要望があがり、モデル河川づくりに発展してきました。

・活動概要

調査改善活動部会では、14年度の最重点活動として「モデル河川づくり」に取り組みました。月

1回開催される部会の会議では、いつも議案のトップにモデル河川づくりを位置づけ、会員間で話し合い、意思一致を見つけて、行動に結び付けてきました。

- ・毎月第3土曜日は「モデル河川づくり」と定め、会員を先頭に市民の皆さんにも呼びかけ、夏場は8時30分～、冬場は9時～快い汗をかいています。
- ・作業の終了前には、前後500メートルのゴミ拾いと、定点での水質調査、小魚などの生き物調査を毎回行っていきます。
- ・植樹や川床、中州の整備や路肩の整備、階段の取り付けなど市民、とりわけ子供や老人が直接水に触れ心が癒せる場づくりにしていきます。
- ・川には飛び石やワンドを設け、水生生物が生息しやすい環境を作ります。

上記を達成するため、

会員間の話し合いを重視して理想とする「モデル河川イメージ」を共有し、一步一步着実に近づけていきます。

活動の結果

- ・一回／月モデル河川づくりの日が定着し、20名～30名が毎月快い汗をかく習慣ができた。
- ・会員間の親睦と交流が深まり、「難しい議論より、一本の草を引こう」と自ら実践する事の大切さを肌で感じるようになった。
- ・荒廃した河川でも、ごみを拾い、川と親しむことで、豊かな河川を取り戻せる事が判った。
- ・月を追う毎に小魚が川に戻ってきて、子供達が網を持って小魚をつかんだり、草を摘んだりし

て遊ぶ姿が見られるようになった。又お年寄りがベンチに腰掛け団欒の姿を見かけるようになった。

- ・モデル河川づくりから「市民によるホタルマップ」を作ろうということになり、学校、市民にチラシを配り、ホタルの飛来調査、感想などの情報を集めた。その結果270件の情報を頂き、分類し、ホタルマップを製作することが出来た。

今後の展望

「モデル河川づくり」の拠点が出来たので、今後は拠点の拡大をはかりたいと思います。その為にも近隣に居住する市民とともに「モデル河川づくり」を継続したいとおもいます。最終的には1, 2 kmの目田川を市民の手づくりで「癒しの川」にしたいと思います。

又、この「目田川モデル河川」と里中河川づく

りを進めている自治会と共に「ローカル水ビジョン」を推し進め、情報の共有、イベントの共催などを行い、守山市全体の「地域水ビジョン構想in 守山」にまで発展させたいと心新たにしています





